2016年1月20日 第518号 (隔月発行)



12-1
DECEMBER-JANUARY

2015-2016





年末の餅つきを開催

12月25日(金)、2015年最後の行事となる餅つきを開催しました。参加者は初の餅つき体験を楽しんだ後、きな粉や黒ゴマなどの甘いお餅に舌鼓を打ちました。また山口県周防大島のふるさと里山救援隊様より毎年いただいているみかんも配られました。





2015年12。2016年1月号第518号

目次

2 新春のご挨拶 公益財団法人アジア学生文化協会 理事長 小木曽 友 ^{巻頭}
小木曽理事長が TNI から感謝状を授与

群馬・日光研修旅行

6 久々の ABK 在館生研修旅行実施と報告

10 参加者感想文

18 討論会より

24 アンケートまとめ

コラム

26 泰日工業大学 奮闘記 (第15回) 「日本語コンテストの意義」 本村 宣子

ABK is MyHome

28 関連イベント&懐かしの訪問者

31 知友会通信

32 MEMBERS

<表紙写真> 華厳の滝(栃木県日光市)

新春のご挨拶

公益財団法人アジア学生文化協会 理事長 小木曽 友

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨(2015)年 11 月 15 日、タイ国の泰日工業大学(Thai-Nichi Institute of Technology-TNI)の卒業式において、同大学の創立 (2007 年)、発展に対する ABK の長年の貢献に対し、ABK を代表して私が表彰を受けました。

くお礼の言葉>

スポン理事長、パンディット学長、スチャリット TPA 会長、ご列席の全ての皆様、本日は TNI(泰日工業大学)卒業式において、栄えある表彰を賜り、真にありがとうございました。今回の私に対する表彰の主な理由は、「TNI における日本語教育への貢献」ということでございますが、これは私個人に対するものではなく、TPA(Technology Promotion Association Thailand – Japan 泰日経済技術振興協会)の設立・発展、及びその延長としての TNI の創設に深く関わった穂積五一先生はじめ、ABK の関係者全体への栄誉であると受け止めております。さらに、ABK が今日まで半世紀以上、風雪に耐えて存続できたのは、タイをはじめ全世界で活躍されている ABK 同窓生の皆様の常に変わらぬ温かく、力強いご支援のお蔭であり、その全ての方々とも今日の喜びを分かちあい、心からの感謝をささげたいと存じます。

私は今日、表彰を受けながら、ABK の創設者である穂積先生の次の言葉を思い出していました。

「・・・・・このような青年の内よりの理想から生まれる創造的活力が、一燈やがて万燈となる如く、ひろく、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の人の心にひろまることを冀い、そのための撓まぬ努力を重ねることをここに誓うものであります」(1964年 ABK 同窓会発会式における穂積先生の挨拶から)

「一燈やがて万燈となるごとく」。私はこの言葉が「穂積精神」を一番よく表すものである と考えておりますが、この意味は次のような例で説明することができると思います。 京都の「大文字送り火」というのをご覧になったことがあると思います。これは毎年8月16日に京都の五山の一つ大文字山に、「大」という文字が火で描かれる行事です。実際の火はどうやってつけるのかといいますと、送り火前日から、一部無病息災など願いを書かれた護摩木を含んだ割り木を集め、それを当日山の上に運搬し、山の上でその割り木を組み、組んだ木の間に松葉を入れて火床をつくり、それを75個、30 cmくらいの間隔で大の字に並べて文字をつくるのです。この火床に午後8時になると端から順々に火をつけていきます。はじめは点であった火が、やがて全



部つながって、遠くから見ると山全体に広がる大きな「大」という字になるわけです。

この言葉は、私にまた、次のようなお釈迦様の言葉を思い出させます。

Thousands of candles can be lit from a single candle, and the life of the candle will not be shortened. Knowledge never decreases by being shared. —Buddha (quoted from the pamphlet of Nalanda University, India) (1本の蝋燭から何千本という蝋燭に火をつけることができる。しかも、それによって始め

(1 本の蝋燭から何十本という蝋燭に火をつけることができる。しかも、それによって始めの蝋燭の寿命が短くなることは決してない。知識というものは、分け与えることによって 決して減ることはないのである)

私はこの言葉の Knowledge (知識) に、Sincerity (誠実さ)、Kindness (優しさ)、そして Perseverance (不屈の精神) という言葉を付け加えたいと思います。そうすればこの英語は、穂積精神そのものを表す言葉になります。

ABKは、これからもタイをはじめアジアや世界の若者たちへの日本語教育と、宿舎における日本人を交えた共同生活、並びに大学との連携による高等教育への協力などを通じてヒューマンネットワークの輪をひろげ、アジアをはじめ世界の国々との平等互恵の友好関係の増進と平和のために微力を尽くす所存です。これからもよろしくお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

2015年11月15日

泰日工業大学(TNI)卒業式 小木曽理事長が TNI から感謝状を授与

2015年11月15日、タイ・バンコクの泰日工業大学(TNI)の卒業式において、小木曽友 公益財団法人アジア学生文化協会理事長に、TNIの創立以来の ABK の貢献に対し、感謝状が贈られました。

2007 年に創設された TNI の 第5期生の卒業式は、2015年 11月15日(日)、バンコク郊 外のラマ9世公園(*)内記 念ホールで行われました。午 前9時10分に開始した卒業式 は、佐渡島志郎在タイ日本大 使の卒業生に贈るスピーチで 始まり、学長による事業報告、 当財団小木曽理事長への感謝 状の授与、昨年12月に退任し た Krisada Visavateeranon 初 代学長の名誉教授の任命、鈴 木徳太郎氏への名誉博士(経 営工学)の授与がおこなわれ た後、卒業証書の授与式が行 われました。修士課程卒業生 97名、学部卒業生657名、計 754名の卒業生の名前が順次 読み上げられ、学生は壇上に 上がり TNI 理事長から一人一

人に卒業証書が手渡されました。最後に学生代表の挨拶、TNI 理事長によるお祝いのスピーチ、TNI 学生のコーラスで午後1



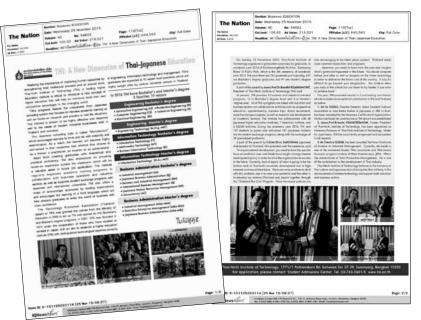
時に卒業式は終了し、会場を後にする卒業 生を TNI の役員、先生方、ゲスト全員が 会場の外に出て見送りました。 今回の卒業式には、現在 ABK 学館日本 語学校で学ぶ学生も数名一時帰国して参加 していました。また、卒業式の後、感謝状 授与者等と TNI 関係者による歓迎昼食会が 開催され、小木曽理事長並びに Krisada 前 学長が、お礼スピーチを述べました。(**)

- *ラマ9世公園:バンコク郊外プラカノン地区にあり、敷地面積約80万㎡の広さはバンコク最大の公園。1987年12月5日の現国王ラマ9世の還暦をお祝いして献上されたもので、園内にはラマ9世の記念堂がある。敷地内には、中国庭園、日本庭園、西洋庭園などもある。
- **小木曽理事長のお礼のスピーチは、「新年の挨拶」をご覧下さい。





感謝状授与式、TNI 卒業式の行われたラマ 9 世公園内メモリアルホールと式の様子



タイの新聞「The Nation」に掲載 された TNI の卒業 式と大学の紹介

群馬・日光研修旅行

久々の ABK 在館生研修旅行実施と報告

2015年公益財団法人東芝国際交流財団 (TIFO) の助成金を受け、久々のアジア 文化会館 (ABK) の研修旅行 (Study Tour) が実現しました。

ABK は 1960 年にアジア学生文化協会初代理事長穂積五一氏によって東京都文京区本駒込に建てられ、日本人学生並びにアジアからの青年学生を中心とした共同生活の場を作り、自治的活動を通じた人間形成、友情醸成の場として学寮を運営してきました。そして、ここでの生活の中で培われた友情と信頼関係をベースに、アジアを中心に各地に貴重な人的なネットワークが構築されています。

このような学寮として人材育成の場作りを今後とも心がけて行く必要性を痛感しますが、時代と共に ABK を取り囲む状況が変化し続けています。寮生の数の増加、そして、最近の大学・大学院に通う留学生は、勉学に、研究に、バイトにと、以前にもまして忙しく余裕のない時間を過ごしています。更に、パソコンやタブレット端末の普及、インターネットの発達で、それらに時間をとられる割合が増え、学寮に戻っても自室に籠る傾向にあること等、寮生同士の交流や職員との交流が少なくなっているのが現

状です。

ただ、将来を担う若者の一人として殊に 留学生は、将来に亘り学術・文化・経済等 の交流の要となる人たちであり、卒業後に は自国や日本をはじめ世界各地で活躍する 人達です。このような留学生の様々な将来 の可能性を考えるに、彼らに、ABKでの様々 な国の学生との出会いと生活レベルでの交 流を重ね、友情を育み、有意義な時間を過 ごして欲しいと思います。そして、そのた めの環境づくり、場づくりは寮生の創意と 事務所の協力が不可欠です。

そこで、2015年度は、そうした場づくりの一環として、多忙な学生生活を送る寮生が、楽しみながら交流を深められる研修旅行を企画しました。そして、参加を希望する学生が全員参加できるよう費用面では助成を仰ぎました。

研修旅行は、フロア学生の有志と職員からなる研修旅行実行委員会をつくり、行き 先や内容等すべて詳細を詰め、フロア学生 会議で賛同を得て、実施に移しました。こ



富弘美術館前で

こにご報告する参加者の感想文、アンケート、写真等から見て取れるように、おおむね研修旅行の所期の目的は達成されたと思っています。研修旅行に参加した学生は、見聞も増え、他の学生からよい刺激も受け、新たな友人もつくり、友情も育むことができたようです。また、それぞれのカメラ(スマートフォン)の中に、そしてそれぞれの記憶の中に、たくさんの思い出を詰め込んで戻ってきました。

ここからまた、寮生がそれぞれの次の新 しい関係性の一歩を踏み出すことを期待し ています。

このような貴重な機会を与えてください ました公益財団法人東芝国際交流財団に対 し、改めて御礼申し上げます。

研修旅行実行委員

AVLIUSH BOLOTBYEK(モンゴル; 東大工学博士1年)/ DAVAASUREN AMARSANAA(モンゴル;東大工 学部3年)/ LIM, GISELLE GRACE FERNANDO(フィリピン;東大農学 博士3年)/ POK SOVANNA(カン

職員: 布施 知子/水須 善幸/森田 渚

ボジア:東洋大・観光修十1年)

(*)フロア学生: ABK 学生フロア規約 (1983年制定) に則り、学生の自治的共同生活を担っている学生。募集、面接により選考され入寮する。ABK の学生活動の牽引役となっている。





●行程表 11/7 (土)

7:30 ABK集合

8:00 ABK出発

10:00 モノ・ファクトリー (工場見学)

11:00 モノ・ファクトリー 出発

12:00 昼食【列車のレストラン清流】

13:00 昼食会場 出発

13:15 富弘美術館 見学

14:15 富弘美術館 出発

14:30 足尾銅山 見学

15:30 足尾銅山 出発

16:30 ホテル到着 【奥日光高原ホテル】

18:00 夕食スタート

20:00 討論会スタート

●行程表 11/8 (日)

7:30 朝食 (バイキング)

8:30 散歩チーム出発

10:00 ホテル出発

10:20 華厳の滝 見学

11:30 華厳の滝 出発

12:00 昼食 【磐梯日光店】

13:00 昼食会場 出発

13:15 日光東照宮 見学

14:45 日光東照宮 出発

17:30 ABK到着





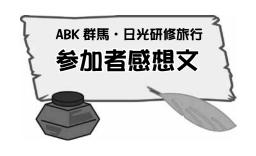




ABK 研修旅行参加者名簿

氏名	性別	国·地域	グル	ープ	部屋	担当
			1日目	2日目	割	
CHOENG HORLEANG	男	カンボジア	7	3	F	ハイキング
PENG EAKKOUNG	男	カンボジア	6	2	F	ハイキング
POK SOVANNA	男	カンボジア	2	4	G	観光ガイド(日光)
LU TAO	男	中国	2	6	G	観光ガイド(東照宮)
MING HUI	男	中国	2	2	D	観光ガイド(富弘美術館)
WANG YA JING	女	中国	4	3	Α	グループリーダー
XU XIAN MIN	女	中国	4	7	С	写真
YANG LI	女	中国	5	4	Α	グループリーダー
ZHOU YUAN	女	中国	7	1	С	医療
JANDRA NYDIA JESSICA	女	インドネシア	7	1	С	車内ゲーム
YAMAMOTO SYUN	男	日本	4	5	G	グループリーダー
CATHERINE KARIUKI	女	ケニア	6	5	В	ハイキング
AHMED	男	リビア	5	4	D	グループリーダー
NG KOK LONG	男	マレーシア	1	7	Н	グループリーダー
OOI KHAI WEN	男	マレーシア	3	6	Е	討論会準備
TEOH DONG XUAN	男	マレーシア	2	5	Е	討論会準備
UNG EE FONG	男	マレーシア	3	4	Е	討論会準備
AVLIUSH BOLOTBYEK	男	モンゴル	3	2	Н	バス司会
DAVAASUREN AMARSANAA	男	モンゴル	5	1	G	観光ガイド(足尾銅山の構造)
LIM, GISELLE GRACE FERNANDO	女	フィリピン	1	3	В	バス司会
WEI YU CHEN	女	台湾	3	5	С	車内ゲーム
CHANON SUWANMONTRI	男	タイ	1	6	D	観光ガイド(足尾銅山の歴史)
DARIN LANJAKORNSIRIPAN	女	タイ	4	1	В	グループリーダー
SALINTIP BOONYINGYONG	女	タイ	6	7	С	車内ゲーム
FUSE TOMOKO	女	日本	3	7	В	グループリーダー
KARUBE YUKI	女	日本	1	5	Α	観光ガイド(モノ・ファクトリー)
KUBOKI YUICHIROU	男	日本	2	6	F	写真
MIZUSU YOSHIYUKI	男	日本	4	1	Н	討論会総合司会
MORITA NAGISA	女	日本	5	2	Α	グループリーダー
TSUKUDA YOSHIKAZU	男	日本	7	4	Е	グループリーダー
YAMADA KENICHI	男	日本	6	3	D	グループリーダー





「2回目の日光訪問」

ポッ ソヴァンナ (カンボジア) 東洋大学大学院 国際地域学研究科 国際観光 専攻 修士課程

2003年の春にカンボジアの日本語弁論 大会で優勝した褒美として、初めて来日し ました。2週間程東京都と福島県の周辺に ある観光地を廻りました。廻った観光地の 中で、私にとって日本の魅力的な観光地 だったのは、1999年にユネスコの世界文 化遺産として登録された「日光の社寺 | で す。日光東照宮で見た木彫像の中で自分の 心に残っているのは、「見ざる、聞かざる、 言わざる、」の木彫像でした。木彫像の大 きさはそれほど大きくありませんが、「幼 少期には悪事を見ない、聞かない、言わな い方がいい」という木彫像の教えが興味深 いです。木彫像のみならず、立派な木造建 築物と自然景観にも当時訪問した私は心を 奪われました。このような魅力的な観光地 であるからこそ、2015年アジア学生文化 協会が行う1泊2日の合宿の行き先として、 私は「日光」の観光地を提案しました。そ してフロア学生を始め、参加した方々のご 意見の結果、2015年11月7日~8日の合 宿の行き先に「日光」の観光地を訪問する



ことになりました。

2回目の日光の訪問は、私にとって、と ても楽しみです。一つの楽しみは、前回訪 間した時と違う同行者との訪問です。今回 の訪問は、31人といった団体人数で同じ 屋根の下で生活している友達やいつもお世 話になっている日本人職員達、また ABK はじめ他の寮の知らない留学生も参加する ので、新しい友達を期待しました。二つ目 の楽しみは、今回はメインの日光東照宮の 観光スポット以外に、初訪問となるモノ・ ファクトリーという工場や富弘美術館、足 尾銅山、華厳の滝という観光スポットにも 訪れるからです。三つめの楽しみは、12 年ぶりの再訪となる日光の観光地がどうい う風に変わったのか、また当時の訪問先の 思い出を思い出しながら、散策するという ことでした。

1日目は、皆元気そうな顔をして、廻った観光スポットを楽しみ充実したようでした。特に、宿泊先の食事や温泉、また自分の意見を自由に述べる討論会は充実していました。テーマごとに、それぞれの自分の国の独特な点、問題点などを背景に意見交換が出来ました。そして、2日目は、期待

していた日光東照宮の訪問で、私が「日光全体の歴史」についてバスガイドをしました。あいにく、当日は雨の日だったので、日光東照宮の散策が思い通りにできませんでしたが、自分が見たかった「見ざる、言わざる、聞かざる」の木彫像が見れたし、2003年訪問時の思い出も思い出せたし、一回目の春と違って、秋の日光は紅葉が一杯見れて、満足できました。

今回の合宿の利点は、様々な観光スポットを訪れた事や新しい人との出会い、日本人の職員や様々な国からの留学性と交流が出来たことです。今回の合宿で後援してくださった TIFO にも感謝しています。是非、次回の合宿が実施できることを願っています。

ABK TRIP TO NIKKO CATHERINE KARIUKI(ケニア) 東京大学大学院 工学研究科 社会基盤学専攻 修士課程

On, 7th-8th November 2015 as floor students of ABK dorm, we embarked on a trip to Nikko in Tochigi prefecture. I have to confess, I was a bit hesitant about joining the trip, this being my last semester, I have been extremely busy with my research. But this trip was a like the God sent, break I needed to charge up for the remaining leg of my study.

Nikko is a beautiful place, a perfect place to



三猿(日光東照宮)

provide the perfect break for the hustle Tokyo is. The mountainous environment, provide fresh air that would calm any restless soul. The season was perfect, beautiful momiji everywhere. I was happy to see simple installation of industries, utilizing small space but highly productive. I have come to appreciate the ability of the Japanese people to maximize the utilization of space.

Tomihiro museum and the surroundings was my best site. In the museum, I loved the painting and the inspiring poems accompanying the paintings, the simplicity matches up the simplicity of Japanese way of life. My favourite poem and painting was on the little berries:





磐梯日光店での昼食

"What I can do is nothing great.

If I can do something with a deep sense of gratitude, that would be great"

Well the pictures tell it all, as they are a record of what the eye loved most.

At the mines, the works, ensured that you get the feeling of how it was 100years ago. Taking the train to the mine caves and seeing the miners in their work. On the last day, visiting the water fall and the world heritage centre was a perfect climax to the site seeing schedule.

Site seeing is fun, but nothing beats spending time with friends, sharing culture, ideas and discussing social issues. The hotel was wonderful, the food 5-star but the discussion session, nomikai, and card game were world class. I got to discuss with my dorm mates about life in Japan, matters dealing with school life and most important my senpai's in PhD, had very good advice on how to handle the next level of my studies.

I am very happy I joined the trip.

「印象的だった足尾銅山」 ダワースレン アマルサナー (モンゴル)

東京大学 工学部 物理工学科

今回の旅行で、7年前に訪れたことがある華厳の滝を再び見学しました。なんだか懐かしい景色に、高校生の時の修学旅行の楽しい思い出があふれ出していました。でも、今回の旅行でも、またたくさんの思い出でも作れたし、日本に

ついてもいろいろ知ることができたので、とても良い旅になったと思います。

訪れた観光地の中で、特に、私がガイド 担当だった足尾銅山が印象的でした。ネットで調べるだけでは、それが実際にどんな ものなのかが体験できないというのは当然 ですが、足尾銅山のように当時使われてい た昔のままのトロッコ電車に乗って薄暗い 坑道に入り、湿っぽい坑内を歩きながら見 学するのは貴重な体験になりました。しか し、数十年前に廃棄された古い建物と、ま だ公害が終わっていないという現実が、足 尾鉱毒事件がどれだけ大きな被害だったか を物語っていました。同じ失敗を繰り返さ



ないように、これからの子供達にぜひ見せ てもらいたい場所の一つだと思いました。

全体的に、環境問題や国境問題などいろいろと考えさせられる旅行になりました。 ありがとうございます。

「二重の幸せを感じた研修旅行」

リム ジゼル グレース フェルナンド (フィリピン)

東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用生命科学専攻 博士課程

ABK の研修旅行は、2015 年のハイライトの一つでした。私は秋祭りやカラオケ大会のような多くの ABK の定期的な文化交流活動に参加しましたが、研修旅行に参加するのは初めてでした。

スケジュールがタイトでしたが、良いバランスでした。私たちは、日本文化を体験したり、美しい自然を見たり、新しいことを学んだり、素晴らしい料理を楽しんだりすることができました! 行った場所のほ



華厳の滝をバックに記念撮影



とんどが私にとって初めての場所だったので、特に初日が楽しかったです。私にとって三回目でしたが、日光への旅も楽しかったです。残念ながら、観光客の大群衆や雨天のため、観光は少し大変でした。

他の国からの人々の意見を聞く機会があったので、夕食後の議論は興味深いものでした。日本と母国に影響を与えるトピックを議論することは重要なことだと思います。私が他の国籍の人たちと同じ意見を持っていることに驚きました。一方、私と違う意見を持っていた人たちから新しい意見を学ぶことができました。

また、委員会の一員になったことも素晴らしい経験でした。委員会の他のメンバーのおかげで、イベントを運営する方法を学ぶことができました。委員会のメンバーとして、イベントが成功したことで二重に幸せでした。

研修旅行は素晴らしい経 験でした。このイベントが今 後も続くことを願います。



ホテルでの夕食会

「群馬・日光研修旅行に参加して」 ダーリン ランジャコーンシリパン(タイ) 東京大学大学院 薬学系研究科 博士過程

今回の日光旅行は、私の3-4回目の日 光旅行ですが、今までの旅行といろいろ違 いました。まず、初めて紅葉の時期に行き ました。観光地でも移動中の道沿いでも紅 葉の景色が綺麗で、とても感動しました。 初日のランチを食べるお店からは、山や川 沿いの紅葉を見ることができて嬉しかった です。そのお店の近くに柿の実がいっぱい できていて綺麗な景色でした。また、今回 の旅行で初めて華厳の滝に行きました。世



界遺産エリアと結構離れている ので、今までの日帰り旅行では行 けませんでした。雨が降っていた ので非常に寒かったのですが、滝 の写真をいっぱい撮って楽しん でいました。

さらに、リサイクル工場の見学も非常に面白かった。実際、リサイクルゴミがどのように分別されて、どのように処理されていくのかを初めて知りました。特にペットボトルの分別が非常に

印象に残りました。ペットボトルのビニー ルとふたが付いているものと付いていない ものの違いでどれくらい分別の大変さが変 わるのかがわかりました。リサイクルの過 程とその重要性を勉強できて、日常生活の 中のリサイクルのことをもっと大事にする ようになりました。どうすればリサイクル のゴミが分別されやすいかを心がけていま す。今までたまにペットボトルのビニール を剥がさなかった自分の行動を変えて、必 ず剥がすようになりました。そのあとの美 術館の見学でも、綺麗な絵と詩を通して人 生の生き方を勉強できて、励まされたと感 じました。また、足尾銅山の見学も楽しかっ たです。鉱石から銅が製錬されるところか ら銅の使い道まで全てを見学しましたが、 昔からのお金やコインなどが展示されてい る最後の建物が興味深かったです。珍しい コイン・記念コインの写真をいっぱい撮り ました。

最後に、この旅行で一番感動したのは、



同じ新星学寮のアーメッドさんと

バス内で学生たちが見学先を説明してくれ たことです。皆さん詳しく調べてきて、難 しい専門用語でも日本語で説明してくれま した。旅行先の情報を把握しているから、 旅行の楽しさが倍になりました。日本の歴 史の勉強にもなりました。とても楽しい旅 行でした。

「生涯の宝物に」 徐 賢敏 (中国)

文化学園大学大学院 生活環境学研究科 被服環境学専攻 博士課程

来日して、寮に住むのは ABK が2回目です。最初の半年は、在学する大学の寮に住んでいました。その時、寮はただ住む場所だと思っていました。ところが、ABKに入ってから、月に1回のハナ金会、毎年開催される寮の新入生歓迎会、秋祭り、忘年会などのイベントがあり楽しむことができ、日常生活も豊富になりました。また、イベントの手伝いで寮の職員の方や他の学生たちとどんどん馴染んで、寮の中の人の繋がりを感じています。

11 月に行った日光への合宿で、戸外の

イベントを初体験しました。それは、普段 ABK のロビーでたまに会った知らない学 生たちと話しをするチャンスだと思いまし た。特に、宿泊したホテルで夜行った討論 会では、各国の学生たちが、今深刻化する 共通の環境問題や国際問題について各自の 意見を活発に交換しました。皆さんがそれ ぞれの視点から素晴らしい発言を続々と出 し、その中には初耳の話もたくさんありま した。大変勉強になりました。その他にも 今度の日光への1泊旅行は、リサイクル工 場、富広美術館、足尾銅山の見学、華厳の 滝、日光東照宮の見学で、2日間一緒に参 加した人とも仲良くなりとてもよい経験が できました。ABK でつくった友達は普段 もよく一緒に散歩したり、各自の国の料理 を作ったり、将来の夢を語ったりと、すで に仲良くしています。今回の合宿には他の 寮からも沢山の参加者があり、美しい景色 を一緒に楽しみ仲よくなって、連絡先を交 換しました。今後も友達の人数はどんどん 増やそうと思います。

将来帰国してもきっといい思い出になる と思います。そして、このことは、私だけ の生涯の宝物になると思っています。



「普通の人でも芸術を作れる」

盧涛(中国)

中央大学大学院 理工学研究科 都市環境学 專攻 修士課程

2015年11月7日と8日、日光見学旅行をしました。私は日本に来てもう1年余りです。2014年の10月、日本語学校に入ることなく中央大学の大学院に入学しました。研究生のうちは毎日実験をし、充実していましたが、せっかく日本にいるのにどこにも行きませんでした。今回の見学旅行はそういう機会を与えていただいただけでなく、どう生きるかの感動を覚えました。

出発当日は朝早く、皆が時間通り集まりました。初めて見た顔ばかりで、会話をどう進めるのかが分からなかったです。そのまま、グループに分かれてバスに乗りました。後で知りましたが、隣の席はリビアから来た Ahmed さんです。私は下手な英語で同じ修士1年の Ahmed さんと会話して、「卒業した後、日本で就職しますか」と聞きました。これも私が日本に来てずっと考えいていた問題です。Ahmed さんは迷わずに「Yes」と答えました。東京から群馬





神戸駅そばの美しい自然を背景に

の最初のリサイクル工場まで、3時間の長い運転でしたが、淡々と Ahmed さんの研究室の面白い話、日常と人生のプランニングに関する会話の中で時間が早く過ぎていきました。

今回の見学はモノ・ファクトリー工場、 富弘美術館、足尾銅山、華厳の滝、日光東 照宮の五つの場所でした。もっとも印象深 かったのは富弘美術館での見学です。

星野富弘さんは群馬県みどり市に生まれました。中学の教諭だった星野さんは事故にあって手足の自由を失いました。それでも生きるということを強く語りたい星野さんは口に筆をくわえて文字や絵をかき始めました。そして最後富弘美術館ができまとれています。文字と絵が一緒で、飾りのない平易な言葉で素朴で美しい詩の世界を作り上げました。この美しい絵と詩は星野さんの強い心を表しています。人は手を、足を動かせるとしても、星野富弘さんのようにどうにもできない時は必ずあります。その時どうすればいいのかを星野さんの作品を見てずっと考えていました。星野さんの

絵を見て、そういうとき一番大切なのは心と世界の繋がりだと思いました。人は生きているうちは悩みがあります、選択に戸惑いがあります。挫折した時、諦めたくないけど仕方がないと感じる時があります。この全てはエネルギーとして心の中に閉じてしまいます。このエネルギーを外に出さないと人は壊れてしまう。心だけ頑張ってもどうにもできないのです。だから、心と外の世界を繋げるものが必要です。星野さんにとってそれは絵と詩です。

心の力を具現化して、叫び出して、自分が生きている証拠を世の中、後世に残すことができたら、どんな困難に直面しても勇敢に歩いていけるでしょう。

^

「日光旅行感想」

洪 一峰(マレーシア)

第一工業大学 工学部情報電子システム工学科

ABK が行った日光への研修旅行に参加 させていただき「嬉しかった!」と言って も言い切れないほど楽しかったです。マ

レーシアの友達と一緒に旅行でき、 さらに新しい友達や ABK スタッフ とも付き合え、話すことができてす ごく嬉しかったです。

今回の旅行で一番印象に残っているのはホテルです。ホテルの温泉と 夕食は最高だと思っています。温泉 に入って、一年の溜まったストレス を解消できて、ゆっくりするという 東京では体験できない生活が体験で



きました。夕食は、秋の食材や日光で有名 な湯葉などが使われ、また、しゃぶしゃぶ、 刺身といろいろあり、天国にいるようで、 美味しかったです。

また、夕食の後、討論会を行いました。 討論会では30分ずつ3つのテーマ(「環境 問題」、「富広美術館」、「帰国後のネットワー クづくり」)について、3つのグループに 分かれ討論しました。討論の他にも参加し た各国の人々のこともお互い深く理解する ことができました。

今回すごく残念なことは二日目が大雨 だったことです。全体としてはすごくよ かったです。また、こんな研修旅行があっ たら、何度でも参加したいと思います。



列車のレストラン清流での昼食



<テーマ A > 帰国後の留学生のネットワークづくりについて考えてみよう

ロン 卒業した先輩を ABK に呼んで一つ のテーマについて喋るというのはどうか。 2 か月に一回違う人を呼んでやってもらう。30 分とか交流して、実際に今日本で 就職してみてどうかといったことを気軽 に聞く。そういったことを継続してやり 続ける。

アン 新入生の歓迎会に新しく入ったばかりの学生を強制的に参加させ、そこで寮の 先輩たちによる ABK の説明会をやるのがいい。私が来たばかりの時は、先輩は一人 もいない状態で、問題があっても誰にも聞けなかった。



ロン 今の 字生はあり で大生はあい。 ではない。 ではんいい。 はんいい。 にない。 にないがあれたい。 にない。



いった先輩を呼ばなくてもすぐに出来ることだと思う。

山本 僕は以前 JASSO の寮のチューターをやっていたが、そのチューターがいる部屋があり、そこにピアノとか漫画とかゲームとかいろいろなものがあって、コミュニティースペースになっている。そしてそこを媒介してくれる人がいると今までなかった繋がりが生まれて、友達になれるということがけっこうあった。そういうコミュニティースペースが ABK にはない。もう少し日常的に集まれる所があれば、今までになかった友達が、年度の最初に関わらずできるのではないか。

ソヴァンナ 今は SNS の世界になっている から、フェイスブックとかを利用するのは どうか。学生が入学すると同時に SNS のメ ンバーになってもらい、連絡を取り合うの も一つの手だと思う。

ロン SNS を連絡のために使うのはいいが、 交流の場は実際に声を出して話さないとい けない。SNS 上で 30 人のグループを作って



現実としてはこれから ABK から離れて いって、自分の将来の目標に向かって いくと思うが、ネットワークというの はそこから発生すると思っている。い きなり高い目標を設定しても達成でき ない。具体的にはお互いに理解するこ と。知る機会を多く持つこと。そこか らネットワークが生まれてくる。

も、そこで喋っている人は数人でほとんど の人は喋らない。イベントの告知に利用す るのはいいが、SNS の場でみんなで話すの は難しいと思う。

テオ 同好会、サークルのようなものを作っ たらどうか。アニメと漫画が好きで日本に 留学している人は大勢いる。またはスポー ツ好きの集まりの同好会を作る。そして定 期的に試合などをするのもいいと思う。

ロン ABK の学生は土日でも部屋にいるこ とが多い。日本語がまだできない状態だと 一人で動くのは大変だが、何人かで一緒に 行けば観光にもなるし、交流の機会になり 知り合いも増える。

メイ 我々のネットワークの最も大事な部 分は人間としての気持ち、それがないとネッ トワークには参加できないし、共同作業も できないし、同じ目標があっても達成でき ない。昔インターネットのない時期でも友 達としてつながった。

大事なことは、我々がアジア文化会館に 在館する時間は限られているということ。

<テーマB>

モノ・ファクトリー、足尾銅山を見学し た感想と資源、環境問題を考える

アーメッド 初めて採掘場を見た。採掘現 場を見て大変興奮した。昔の人々が厳しい 状況の中でどのようして銅を掘っていたの か、ここの採掘場では地中の深く、寒いと ころでいくつもの工程を経て銅を掘り出し、 更にいくつのもの工程を経て製品を造り、 社会に送り出し役立てていたのを知って大 変感動した。一連の順序に従ってグループ 単位で働き、長い工程を経て製品をつくり 社会に送り出す、そうした大変さ、努力を 知ることもできた。

アフリカには ダイヤモンド鉱 山や金鉱山があ る。銅よりもっ と魅力的なもの かもしれない。 チャンスがあれ ば行ってみたい。 そして資源が最





終的に製品になるプロセスを見てみたい。 とても良かった。

メイ 最近は中国では石炭と石油をどう探すのか、金を探すよりももっと激しく探している。また、世界のレアメタル産出量の90%が中国だが、中国のレアメタルの90%が内モンゴルにある。中国のレアメタルは輸出する国と輸出しない国があるので、輸出しない国には問題が出ている。

キャサリン レアメタルの入手が難しくなって、その後日本の自動車会社は製造を変えてレアメタルを使わない方法を開発している。それによって今、新しいテクノロジーが育っている。ケニアは緑なら豊富にあるが、あまり資源はなく貧しい。

シャノン タイもすごく緑が多いけど、資源は何もない。食べ物だけは溢れているが、 鉄も、ダイヤモンドも、石油もない。

ル 私は今は河川、水門の研究室にいるが、 研究生の時は水処理の研究室にいて、半年 間、リンをどうやって回収するかという研究をやっていた。化学肥料に使われるリン。実は日本は将来、世界的に水の問題と食料の問題がすごく深刻になると思うが、その中ですごく重要になってくるのが、リン鉱石。リンから作る化学肥料がないと農業生産ができなくて、食料を生み出せない。

実はこのリンを持っている国は 3つあって、一つはアメリカ、一つは中国、もう一つはモロッコ。その中で最も大きい リン鉱床を持っている国はモロッコだが、近年リン鉱石の価格はだんだん上がっていて、それはモロッコがマーケットを狙っていて、輸出を制限しているから。大企業が 利益を得るために資源操作をしているということがすごく重要な問題になっている。

リンが普通の金属と違う所は、一度使うと元にもどらないということ。人の細胞の4%にリンが含まれているが、食べたもののほとんどのリンは吸収されず、下水道を経由してどんどん海に流れてしまうという現状があり、それをどうやって回収しようかということが今課題になっている。資源



を作る、開発もすごく重要だけど輪を回るような技術に力を入れ、バランスをとって 社会が回るようにするのがすごく大事だと 思う。

キャサリン ケニアには森林伐採問題がある。ナイロビは世界で一番のグリーンシティーで、大きな公園もあるが、政府は道路や空港、マンションを次々と造り、森林破壊をしている。また工業化による汚染水の問題もある。

アーメッド リビアでは飲み水に地下水を使っているが、水源を探すのは大変。かつては海水を飲み水に変えて使っていた。アフリカは地中海に面した2000kmに及ぶ長い海岸線が広がっているので地中海に面したリビアも多くを海に依存している。国はたくさんの壮大なプロジェクトを行い、その地域の海水の浄化システムを開発し使っていたが、危険な状態があり、今は地下水に依存している。

ソヴァンナ リサイクルの工場を見たが、カンボジアは他の発展途上国と一緒でゴミの分別は全然していない。3R(Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル))を考えた時、発展途上国と日本のような先進国を比べると考え方が少し違う。これは私の考えだが、発展途上国の場合はリユースの方が多いと思う。日本の場合はリサイクルの方に力を入れている。使い終わって、リサイクルの工場に持っていけばリサイクルできるということがあって、



まだリユースができるモノでもリサイクルの工場に持って行ってしまう。それはもったいないのではと私は感じた。だからあるものを作ったら、使えなくなるまでは使った方がいいのではないかと思った。

環境問題で言えば、カンボジアにはゴミ山というのがある。ゴミの回収業者がそのゴミ山にゴミを捨て、そこでリサイクルできる商品を見つけ出す子供など貧しい人たちがいて、再利用できるものは持ち出しリサイクル業者に売られて行く。しかしそうでないモノは腐って有毒ガスなどを発生させるので環境には良くない。

ギ 台湾は日本のように細かく分別はしていない。資源ゴミは缶でもプラスチックでも一つの袋にまとめて出し、ゴミ回収者が分ける。ゴミの収集車が来たら住民が自分たちでその車にゴミを放り込んで行くが、収集車は一般ゴミと資源ゴミの車に分かれている。

オーイ マレーシアはリユースはあまり やっていないが、リサイクルはけっこうやっ ている。 缶やペットボトル、 新聞などはお 金やティッシュペーパーと交換できるので、



ダーリン 支えられてきた人だから、 今は自分が人を支えたいという存在 だと思う。自分は既に一度底に落ち てるが、人が救ってくれたので、そ れを人に返さないといけないという、 そういうのがあると思う。「もし神様 が腕を動かして下さるとしたら母の 肩をたたかせてもらおう」といった お母さんへの感謝の詩がある。

やろうというモチベーションが出る。

ゴミに関して、日本に来て一番気になったのは、どうしてこれほどゴミ箱が少ないのかということ。マレーシアは10歩に一個のゴミ箱がある。日本ではパンの袋を捨てるため一日中ゴミ箱を探していたりする。

<テーマC> 富弘美術館を見学して

シュウ 富弘さんはケガをしたばかりの時、自殺をしたいと考えた。それに対して周りの友達などみんなが励ましの言葉をいっぱい書いた帽子が展示されていた。私はその帽子を見て、彼は周りからの励ましのおかげで耐え、少しずつ勇気をもらい、現実を乗り越えて、今、上手な絵を描き感動的な言葉を書いて他の人に大きな影響を与えられるようになったということがわかった。

また、文字がやわらかいというか円い。 口で書いたからこそ、そういう作品が生ま れたんだと思う。 ジョ 初めの頃、あの詩を書いた時はやは り苦しかったと思う。だから神様に頼りた いとか、その時の辛さとかが感じられた。 でもその時の作品にはあまり強さが感じら れず私には物足りない感じがした。でもど んどん見ていって、最後の一枚に衝撃みた いな感動を受けた。その詩は「冬があり夏 があり昼と夜があり晴れた日と雨の日があ ってひとつの花が咲くように悲しみも苦し みもあって私が私になってゆく | というも の。ここには神様という言葉が出てこない。 自分に注目し始めた、もう乗り越えたとい うこと。自分を認めた、体の不自由な自分 を受入れた。だから強い。彼の強みがここ から出てきた。この1枚はすごく好きで私 はハガキを買った。



ル 人間は例え身体が動かせるとしても、何もできない状態という時がある。そういう時、どうすればいいのか。心の突破口というものを探さないといけない。本当に伝えたいものがあればその突破口に自分のエネルギーを注ぐ。社会の中での自分は表、自分の心は裏。表をちゃんと維持するためには裏が強くないとダメ。表もすごく大事だけど、裏も、例え

ば自分の趣味などやりたいことを見つけて 裏をしっかりと強くしていけば、表がどの ように変わっても、自分は動じない。そう いう人になりたいと思った。

オーイ マレーシアが発展したのはここ十 数年。それまでは美術があまり重視されない傾向があり、私をはじめ当時の子供たちは芸術に興味をもつ機会がなかったと思う。学校でもマレーシアは3つの言語を学ばないといけないので、音楽や美術の授業をする時間はない。美術館も私の記憶では日本に来る前は一度も行ったことはなかった。だから関心を持てなかった。今日はこの絵はすごいなあ、綺麗だなあという気持ちしか持てなかった。

メイ 星野(富弘) さんは最初は絵画をやってなかった。絵画の才能は個人の能力だが、もっとも芸術に重要なのは自分との会話。人との会話よりも自分との会話が一番大事。おそらく手足が不自由になって、外の世界と離れた状態になって、いろいろ自分で考えて、自分のこと、命のことをいろ



いろ考えた結果、彼の才能が現れたと思う。一番感動したのは彼は生きる能力が強いこと。ここまで素晴らしい絵を描くのは我々専門家が見ても驚く。普通の人の何倍も苦労して、そこで出来たのは今我々が驚くほどの絵。

もし自己発言したい気持ちがあれば、自 分を表現したい気持ちがあれば、そして 自分の中に可能性があると思ったら、そ れは芸術として現れることが出来る。我々 はまだ若い。いっぱい可能性はあると思う ので、今を大事にして欲しいというか、今 からでも芸術に対して目を向けて欲しい。

見たものをそのまま描くことも芸術だが、思ったものをそのまま描くのが一番の 芸術。それが本当の表現だと思う。

ソヴァンナ 富弘さんが描いた絵は花の絵が多い。一つ一つの絵を見て、その絵に描いてある花があってそこに書き添えてある言葉がある。けっこう励みになる言葉が書いてあったから、面白いなと思った。その絵だけでなく、絵を描いた人の気持ちも伝えていることが素晴らしいなと思った。

群馬・日光研修旅行 アンケートまとめ

[1日目]

1. モノ・ファクトリー(工場見学)

く良かった点>

- ・専門学校で資源回収に関するマーケティングを 勉強したので、モノ・ファクトリーを見学して より深く理解できた。
- ・資源の大切さを初めて実感した。特に日常のゴ ミ分類はとても重要だと思う。
- ・環境を守るためにビジネスを起こしたのが素晴 らしいと思う。
- ・普段はペットボトルのキャップを外さずに捨て ているが、これからは外して捨てます。寮にも ペットボトルとキャップを分別するゴミ捨て場 を置くといいと思う。
- ・リサイクルゴミ、粗大ゴミの処分にお金がかか る意味がよく分かった。

く良くなかった点>

- ・実際に作業している場面が見たかった。
- ・狭いところに入るときは、全員が入れず、声が 聞こえなかった。

2. 昼食

<良かった点>

- ・電車の中で食べるのが新鮮で、楽しかった。
- く良くなかった点>
- 冷たかった。
- 量が少なかった。
- スタッフの対応があまりよくなかった。

3. 富弘美術館

<良かった点>

- ・とても感動した、自分も富弘さんみたいに頑張 らないといけない!
- ・作品の強い生命力を感じ、詩の美しさと言葉の 独特さを味わいながら、画家自身の物語と心の 世界をめぐった。
- ・コンサートがよかった。
- ・美術館の外の風景が美しかった。
- ・富弘さんは手足の自由を失った後、生きること に対する勇気や、自分の夢に向かった姿勢が、 私自身にも大きな勇気を与えてくれた。

・美しい絵を見れただけではなくて、その絵を通 して星野さんの強い心も見えた。

<良くなかった点>

・センスがないので、よく分からなかった。

4. 足尾銅山

<良かった点>

- ・暗くておもしろかった。
- ・本物の銅山はあまり見たことがなく、珍しい体 験だった。
- ・日本は資源がないというイメージがあったが、 これほど大きな(全長 1500km)銅山があった ことにびっくりした。

<良くなかった点>

- ・時間が短かった。
- ・もっと深い知識を得たかったが、ガイドがいないのが少し残念だった。
- ・もっと公害問題に関する展示があるかと思った。
- ・環境問題の情報が少ない。

5. ホテル

<良かった点>

- 温泉がすごく良かった。
- 部屋が広くて快適だった。

6. 夕食

く良かった点>

- ・いろいろな種類があり、美しい和食と花のよう な鍋だった。
- ・秋の食材をいっぱい使っていた。おいしかった。
- ・しゃぶしゃぶ、刺身がとてもおいしかった。
- おいしいだけでなく、和食を皆で食べるという ことがおもしろかった。

7. 討論会

<良かった点>

- ・テーマ以外の内容も話して、よく理解できた。
- ・30 分という時間制限があってよかった。3 つの テーマでいろんな人と討論できた。
- ・よいアイデアをたくさんもらえた。
- ・各国の人たちの考えていることを聞いて勉強に なったし、いい交流ができた。

く良くなかった点>

- ・討論に参加する人としない人がいた。
- ・話す声が聞こえなかった。
- ・時間が足りない時があった。
- ・それぞれのテーマについて、個人発表をした方がよかった。

【2日目】

8. 朝食

<良かった点>

- ・バイキングなのでよかった。
- いろいろな種類があった。

9. 朝の散歩

<良くなかった点>

- ・雨で中止になったのが残念。
- ・景色が良さそうだった。

10. 華厳の滝

<良かった点>

- ・迫力があって、すごくきれいだった。
- ・ 滝を見るためにその展望台を建てるのが、すば らしい技術だと思います。
- ・水墨画を思わせる素晴らしい景色でした。最高 な日本の景色だと思います。

<良くなかった点>

- 雨が降っていた。
- 見る所が少なかった。

11. 昼食

<良かった点>

- ・健康的な昼食だった。
- ・栗のもち米は大好きでした。
- ・精進料理を食べたのは良い経験で した。

<良くなかった点>

- 肉が足りなかった。
- 米がべたべたして食べにくかった。

12. 日光東照宮

<良かった点>

- 紅葉が見れた。
- ・立派なお寺だった。
- ・日光に行ったら会いたいと思って

いた、有名な猿(三猿)に会えて感動した。

・鳴龍寺の龍が鳴くのが、昔の人々の技術やイノ ベーションはすばらしいと思った。

<良くなかった点>

- ・雨が降っていて、とても混んでいた。
- ・見学時間が短かった。

13. 研修旅行全体について

- たくさん新しい友達ができてよかった。
- ・人間同士が触れ合う場所が必要で、時間がかかると思う。月1回の花金会では交流がまだ不足しているかもしれない。
- ・旅行だけでなく、勉強もできてよかった。楽しかった。
- ・旅行中は全体で行動したので、グループ分けの 意味があまりなかった。
- ・バスの中で観光ガイド係の人から、観光地に関する紹介を聞いた上で観光(見学)するのはとても意味がある。工夫して、詳しくて優しい紹介をしてくれた。
- ・こんな研修旅行がまたあったら、何度でも参加 したい。友達ができたし、とても楽しかった。
- ・日本の季節は台湾よりはっきりしている。四季 の風景が全然違って、とても美しい。
- ・せっかく各国から ABK に集まったのに、しっか り交流しなければもったいないと思う。今後も こういうイベントをもっと行えばいいと思う。



日光東照宮にて

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学(TNI)奮闘記

15 日本語コンテストの意義

本村 宣子

私の勤務する泰日工業大学のJPN (Japanese) コースでは、3年生の前期に、 プロジェクト (演習) の一環として日本語 によるコンテストを実施しています。今年 も9月9日に、ご後援いただいている分析 産業人ネットの小島理事、ABK カレッジ の佃校長にご来校いただいて、無事開催す ることができました。今年のテーマは『タ イについてキャンペーンしよう!』という もの。タイに関することなら、テーマは自 由。各クラスの代表チームが一生懸命考え たテーマには、タイ人にもあまり知られて いない観光地の紹介あり、守ってゆきたい 伝統文化あり、健康や環境問題あり、また、 象牙の乱獲や物乞いなどの社会問題に関す るものもあり、バラエティに富んだ興味深 いものでした。

本校には日本語専科はなく、日本語の 授業時間も決して多くはないため、学生 が皆、日本語が得意というわけではない し、日本語の試験のたびに頭を抱えてい る学生も見られます。そういう学生達と 共にプロジェクトに取り組み、日本語で の発表が出来るようにしていくには、授 業時間以外にもグループ毎に指導時間を といる必要があり、講師側にとってプ数が多いため、私の予約表は隙間なく埋まっているのに、うっかり約束を忘れてしたがいたり、キャンペーンのと 大な構想はあるものの、少ない人数しているれた日本語でどうパフォーマンススしていかからずに悩むグループがいたり。 個々のグループの個性や日本語能力をどと一緒になって引き出していけばいいか、学生との練習期間も終盤になる頃には、正直、 を力的にはヨレヨレ状態になっています。

しかし、そんな苦労も忘れられるのがコンテスト当日。学生達は、この日のために一生懸命練習した日本語に、キャンペーンのアピール効果を上げるための大道具や小道具、衣装や被り物などを準備して臨みます。今年のコンテストでは、自作の歌(もちろん日本語)を歌いながらダンスを披露するグループや詩を朗読するグループなども登場し、1グループの発表時間3~5分はあっという間に過ぎていきます。大勢の

観客を前にして、緊張のあまり、覚えたはずの台詞が出てこない学生や、台詞を飛ばして混乱、しばし沈黙、という学生もいましたが、仲間の助け(台詞を囁いてもらったり?)や観客からの声援を受けて、何とか無事に発表を終え、暖かい拍手を送られていました。また、中には、頭の中が真ったいました。また、中には、頭の中が真ったいうりなどという瞬発力(即時対応能力?)を見せてくれる学生もいて、見てりる私達を笑わせ、ハラハラさせ、そしてタイの抱える課題への意識を喚起してくれました。

コンテスト終了後、会場のステージで記 念撮影をしている学生達の高揚した顔を 見ていると、彼らにとってこのコンテスト は、入賞するしないに関わらず、普段の授 業とは違った充実感や達成感を得られる機 会になったことが感じられ、このコンテスト トが日本語学習に取り組む意欲を増す契機 になってくれるのではないかと期待しています。そして、私自身は、このプロジェクトでの個別指導を通して知ることのできた 個々の学生の個性や考え方を 日本語指導 の場で活かしていけるよう努力していまた いと思っています。

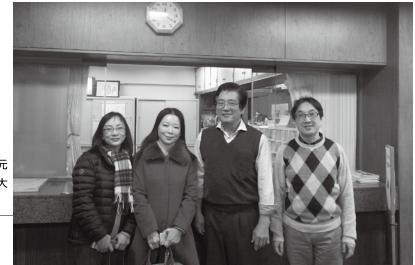


練習し始めの頃には、「かわいそうですねえ」と嘆く台詞を「かわいいですねえ」と言っていたグループが入賞するまでに。学生達と嬉しい記念撮影

本村宣子(もとむらのぶこ)

2009 年に来泰し、泰日工業大学の日本語常勤講師となる。家族を日本に残しての孤軍奮闘(極楽とんぼ?) バンコク生活も今年で7年目。

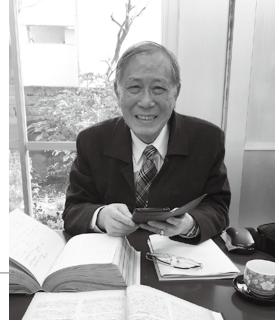
ABK is My Home 関連イベント&懐かしの来館者 2015/12/4 Krisada Visavateeranon 氏(タイ、泰日工 業大学初代学長) (左手前から2人 目) 慰労歓迎懇談 会



2015/12/19 李焱さん (中国・元 日本語生・多摩美大 院) (左から2人目)



2015/12/28 王喜民夫妻 (Nevin Hiong マレーシア、元フロア生、元日本語生・尚美大) (左から3、4人目)



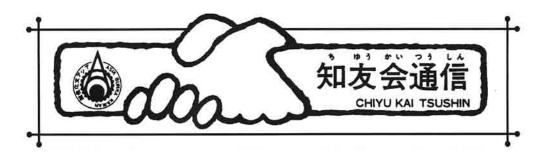
2016/1/8 劉錫江氏(台湾、台湾大学名誉教授)



2015/11/16 理事長訪タイ時 ABK-AOTS タイ同窓会事 務所訪問後、同窓会会長 Ms.Somusri J. (右から3 人目)、専務理事 Mr.Suchai P. (右) と懇談



2015/12/初旬 安倍首相インド訪問時 Prof.HS Prabhabar (安倍 首相右後) Japanese Studies,School of International studies Jawaharlal Nehru University



※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます(http://www.jpss.jp/ja/)

こうえきざいだんほうじん とうありゅうがくせいいくゆうかい 公益財団法人 東亜留学生育友会

たいしょう **対象:**

- (1)アジア諸国・地域の出身であり、大学院 の正規課程に在籍している留学生。
- (2) 他の奨学金を 15 万円以上受給していな いこと。
- (3) 月例会(月1回、原則第2日曜日に かいさい しょうがくきん てゎ た まいつきしゅっせきかのう 開催。奨学金を手渡し)に毎月 出 席可能であ ること。
- ●**給付金額**:月額3万円
- ●支給期間: 2016年4月~2017年3月

までの 1 年間

はうにんまう めい にほんじんじゃっかんめい **用人数:**10名(うち日本人若干名)

ぼうぼう じっしだんたい もう こ **方法:**実施団体に申し込む

あう ほ Looeo **応募締切:**2 月 14 日(日曜日)<u>※</u> 郵送で 期日までに「必着」のこと

といわ きき おうぼしかく ていしゅつしょるい)問合せ先:応募資格・提出書類などについ ての問合せは、日本語で 1 回まで下記メール アドレス宛。

E-mail fujisaki@eacat.or.jp

じっしだんたい こうえきざいだんほうじん とうありゅうがくせいいくゆうかい 実施団体:公益財団法人 東亜留学牛育友会 かながわけんかわさきしあそうくおうぜんじひがし 神奈川県川崎市麻生区王禅寺東 3-35-8

URL http://www.eacat.or.jp

りゅうがくせいしょうがくきん にほんこくさいきょういくしえんきょうかいかんむりしょうがくきん ■ ユアサ留学生奨学会(日本国際教育支援協会冠奨学金)

たいしょう **対象:**

(1) 平成 28 年 4 月現在で、日本国内の (以下「大学」という。)の修士・博士課程に正 規生として在籍する私費外国人留学生。日本国 ない だいがく きふしゃ きょうぎ うえせんてい していこう 内の大学は、寄付者と協議の上選定した指定校 せい 制とする。また、在留資格は留学であること。

- (2) 東アジア及び東南アジアの諸国及び地域: の国籍を有する者。
- (3) 本奨学金の受給期間中、他の奨学金を受 けない者「貸与型(返済が必要なもの) 奨学金、 がくひめんじょおよ いちじきん のぞ 学費免除及び一時金は除く]。
- (4) 留学の目的又は計画が明確で、修学の効果

が期待できる者。

- (5) 経済的援助を必要とする者。
- (6) 心身共に健康であり、かつ品行方正で学業 せいせき、ゆうしゅう、もの 成績が優秀な者。
- (7) 日本語による意思伝達が可能な者。
- (8) 在籍大学の長の推薦を受けることができる もの 者。
- *1 東アジア放びまたアジアの諸国は、モンゴル、 まゅうごく ほかごん かいごく たいりか 中国、香港、韓国、台湾、フィリピン、ベトナム、 ブータン、ラオス、カンボジア、タイ、マレー シア、シンガポール、インドネシア、ブルネイ、 ミャンマーとする。

●支給金額:月額 10 万円

●支給期間: 平成 28 年 4 月より平成 29 年 3 月まで(ただし、大学における在籍期間中に限る。)

●採用人数:7 名程度

●応募締切:2月12日(金)(必着)

● 実施団体・問合せ先: 公益財団法人 にほんこくさいきょういくしえんきょうかい じぎょうぶ こくさいこうりゅうか 日本国際教育支援協会 事業部 国際交流課 〒 153-8503 東京都目黒区駒場 4-5-29

TEL: 03-5454-5274 FAX: 03-5454-

5242 E-mail: ix@iees.or.jpl

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2015年10月

特別会員

TJC 株式会社 新宿区

替助会員

東洋パーツ(株) 秩父郡

正会員

 $(2 \square)$

石川 毅/優子 北区 (1口)

平峯 克 川崎市 井上 美和子 文京区 大田原 康彦/真澄 仙台市

 奥山 節子西村山郡佐藤 和江日野市中島 明彦/絢子横須賀市石井 さち子京都市HENG FU CHONG (2年分)ドイツ

ご寄附

眞山 靜子文京区松浦 秀嗣国分寺市宮崎 悦子金沢市酒井 杏郎渋谷区石井 さち子京都市

2015年11月

正会員

 $(1\square)$

田守 智恵子札幌市福井 道子豊橋市

早乙女 和義/博子品川区藤田 淑子文京区宇戸 清治/マリ八王子市高木 桂子墨田区

ご寄附

 岸野 弘
 文京区

 齋藤 美知子
 富里市

 小木曽 建
 世田谷区

(前号掲載漏れ) 2015年8月

ご寄附

稲垣 史 足立区

皆様の暖かい御支援に感 謝申上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純 民間運営の公益法人ですので、財源に限り があり、皆様方からお送りいただく会費、 寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財 源となっています。何卒ご理解、ご協力を お願い致します。

協会のあらまし

名 称:公益財団法人アジア学生文化協会 ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOSIATION (ASCA)

所在地:東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者:理事長 小木曽 友

設 立:1957年(昭和32年)9月18日 故穂積五一氏創設

目 的:日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舎の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営(進学希望者向 けの日本語を中心とする教育)
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社) 日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の 会との連携・協力

◇会費(年額)◇

正会員 1口 1万円 賛助会員 1口 5万円 特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円(十税)でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体 の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の 優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

おかげさまで、当財団は2014年4月1日に公益財団法人に移行しました。これまでご支援いただきました皆様には大変ご迷惑をおかけしておりましたが、これにより会費並びに寄附金は税制上の優遇措置の対象となります。今後とも、皆様のご支援の下、これまでと同様留学生宿舎の運営、留学生への情報提供、同窓会活動等の活動を通じ、アジアの青年の育成と友好親善のために微力を尽くす所存です。引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

- 後 記

タイの泰日工業大学 (TNI) の今年の卒業式で幣協会小木曽理事長への感謝状の授 与があり、同行し出席した。卒業式には全卒業生が、黒の制服の上から南国のタイ らしい薄手のガウンをまとい式に参加する、とても厳かな雰囲気の式典であった。 この日、早朝から会場のラマ9世記念公園の入り口周辺には家族や友人がお祝いに 駆けつけ、卒業生にプレゼントする花やぬいぐるみ、キャラクター・バルーン等を 売る露店が数多く出ていた。学生は、朝6時頃に集合し、広大な美しい公園の一隅 れる時日が表といく。 でクラスごとに集まって式の開始を待っている。大学卒業から卒業式まで数か月開 くので、既に就職している学生がほとんどで、式も日曜だ。また、卒業式会場前の 長いテントには、大型テレビ画面が数台設置され、家族席が用意されていた。11月 の卒業式は雨の比較的少なくなるシーズンを選んでのことでもあるようだ。 (F) まず研修旅行先として学生から世界遺産が人気があった。今年は11月に入っても暖 かく、おかげで11月初旬の日光東照宮周辺の紅葉は盛りであった。全般的に夜の討 論会がとても楽しかった、とても勉強になったとポイントが高かったのは、嬉しく もあり、また、普段あまり議論する機会がないことも浮き彫りになったように思わ れる。奥日光湯元温泉の宿舎は源泉かけ流し、24時間熱い湯の出るところで、 生にも大好評。また、あまり期待を寄せてなかったホテルの夕食が思いがけず立派 なもので、五つ星を付けてくれた留学生もいた。また、初日のわたらせ渓谷鉄道の 神戸(こうど)駅隣接の旧特急列車の"レストラン清流"で食べた『トロッコ弁当』が、中味はまあまあと思っていたが、"冷たかった"と評価がいま一つであったのは 2日目は朝から雨で、奥日光湯元湖周辺のハイキングができなかったこ と、東照宮見学が、雨で、至る所混みあい長蛇の列で余裕がなかったのが少々残 念。やはり、皆で出かける旅行は雨は避けたいものです。

アジアの友 2015年12月号-2016年1月号

2016年1月20日発行(通刊第518号)

年間購読(送料共)3,000円+税 1部500円+税

発 行 人 小 木 曽 友 編 集 アジアの友編集部

発 行 所 公益財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2 - 12 - 13 (☎113-8642)

電話番号 : 03 - 3946 - 4121 ファクシミリ: 03 - 3946 - 7599

ホームページ: (http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

3+81-3-3946-4121 **3**+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。



学校法人 ABK 学館

ABK学館日本語学校

所 在 地 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12

電話番号 +81-3-6912-0756 FAX +81-3-6912-0757 URL http://abk.ac.jp E-mail info@abk.ac.jp



- 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校 (英語名称: ABK COLLGE)は1957年に 設立された公益財団法人アジア学生文化協会で寮生活や 日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付 と献身的な協力により、学校法人による日本語学校とし て2014年4月に開校しました。当校には姉妹校のABK日本 語コース (公益財団法人アジア学生文化協会) もあり各 種協力を行います。



	4月入学 1年コース	10月入学 1 年半コース	4月入学 2年コース				
授果時間	860M9103	1.290時間	1,720時間				
入学粮定料	20.000F3						
入 学 金	円900,08						
授 第 科 (施設・教材資金G)	620,000PJ	930.000F3	1.240.000F				
勞辣投 AIX日本語 文章	コース(公益財団		生文化協会				
	4月入学1年コ	ース 10月入1	10月入学 1.5年コース				
按京時間	1.086 時間	1	1.586 時間				
入学核定料	20.000F3						
λ 7 ±	80,000円(大学進学日本語課程) 95,000円(大学進学準備課程)						
授業 第二科	720.000FB		F1000.080,1				

